



《夏季フィールド研修を終えて》（みなさんの感想）

職人としてプロ意識をもって学び続け、仕事をしているお話に大変心を打たれました。また、文化の中にある「けがれ」について黒と死・赤と血・白と生を結び付け、歴史的視点、文化人類学的視点からの貴重な意見を拝聴し、日常の心にある差別について見つめる機会となりました。展示会場には、小学生の感想や調べ学習の展示物などが掲示されていました。知識として「知る」ことの重要性を改めて実感いたしました。

「人権」をテーマに考え、戦争のない平和であることの素晴らしさを知るには、歴史を学ぶなどの理解とともに、「当事者の思い」に触れることも大切であると考えております。直接「当事者の思い」に出会うことが一番の意識改革につながると感じます。しかし、どの子どもも教員も同じような機会に恵まれるとは限りませんから、学校では「出会い」を大切に考えていく場面を意図的に設定し、体験を積み重ねていくことが必要だと思いました。

職業差別について深く考えることがなかったので、差別されている職の辛さを聞くことができ、考えることができました。まず、知ることが大事だなと思いました。

心の中には実は無意識の差別があり、その撤廃を目的として、命をかけて活動している方々がいることを知りました。と場の歴史に触れることで、今でも根深く残る差別意識と戦い続けていることに、考えさせられました。教員たるもの、無知ではいけないなと思いました。新たな学びの場となり、よい経験となりました。

と場について、全く知識もないまま研修に参加しましたが、人権について深く考えるきっかけになりました。と場労働者に対して偏見はなくても、「自分の家の前にと場ができれば」と考えさせられたとき、少し抵抗をしてしまうような気がします。同時に自分にはないと思っていた差別意識に気付きました。これから消費者として、教員として、自分の中の偏見と向き合って解消させたいです。

当事者の方のお話を聞くと人権課題について、よく理解できるのですが、それを伝えるのが難しいなと改めて思いました。

事前に校内で研修をしっかりとしてから見学に行くべきだったと思いました。とてもデリケートな人権問題を勉強するのに、勉強不足だったと反省しています。今後、このような校外研修があるときは、校内で事前学習をして、しっかりとした視点をもって、研修していけたらと思います。

とても良かったです。まだまだ考えていくことだと思います。簡単に分かったと言いたくないと思います。当事者の方が思いを丁寧に話して下さって良かったです。知らないことが一番怖いこと、分かり合えないことだと思います。知ると誤解が理解となり、理解が思いやりにつながると感じました。

宮崎さんはご自身お子様もあり、逃げも隠れもせず、向き合って生きておられると思いました。ある種、求道者にも見えて、他の生き物の命を頂いて生きる私たち人間として、よりその命を最高の状態で提供するかという点において極め、技術を磨くという生き方に真剣さと覚悟をもって当たってくださっていると感謝しました。差別をしている人は差別をしていることに気付かず、それが相手を傷つけていることにも気付かないと感じました。まだまだ考えが浅いので、これからも折に触れ、この体験を考えていきたいと思います。

食肉とするまでの過程やと畜の歴史、また、と畜解体業務を担っている方々の熱い思い等、幅広く知ることができてよかった。

肉という身近なものでありながら、と畜のことに関して全くという程知識がなかったので、今回、本当によい学びとなりました。私自身は差別意識をもつことなく、今まで差別されてきた歴史も知りませんでした。しかし、現在でも差別意識をもつ人はいて、差別を受けて心を痛めたり、家族の心配をしたりする方がいることに胸が苦しくなりました。

今回と場で働く方の仕事に対する熱い思いを聞くことができ、そのプロ意識に感動しました。仕事に誇りをもって働く姿を児童にも話したいと思いましたし、そういった仕事があるということについても教えていきたいと思いました。教科書には出てこないことでも、教員として持っているべき知識だと思いました。

「子どもがアリを潰しているのを見たら、先生たちはなんて指導をしますか。」

この質問の深さに衝撃を受けました。「生き物は殺してはいけない」という概念があった私にとって、と場で働いている方々の存在を考えていないのではと深く反省をしました。

宮崎さんには、様々なことを教えていただきました。と場の歴史、牛の品質や穢れについてなど、私が知らないことばかりで深く学ばせていただきました。特に印象に残っているのは、宮崎さんの仕事に対するプロ意識の高さです。高度な技術が必要なことが、ビデオや話からよく分かりました。

「完璧にこなせたことがない」「この職場には、自分の仕事に満足していない者が多い」など向上心をもって取り組む姿勢は見習うことばかりです。この職人の方々のお陰でおいしいお肉が食べられることに感謝しかありません。お肉をもっと味わって食べようと思いました。

今なお、と場で働いている方々を差別する人間がいるのかと思うと、正直許せない気持ちです。どんな理由があるにせよ、肉を食べる大勢の人のために誇りをもって仕事をされている方々を屈辱し、差別をするのは絶対におかしいと思います。職場の半分の人が自分の職業を子どもに言えないという現実はあまりにも悲しいです。私は教師として、自分のクラスにと場で働いている保護者がいると思って子どもに接していきたいと思います。アリをつぶしていたら、「生き物を殺してはいけない」ではなく「何で潰していたのか」と問い掛けたいと思います。動物の前にその子自身、人間を見ていきます。

大変有意義な時間を過ごさせていただきました。このお肉の情報館をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。また来たいと思います。ありがとうございました。